

## 平成 29 年 6 月の熱中症による救急搬送状況

熱中症による救急搬送人員数について、平成 29 年 6 月の確定値を取りまとめましたので、その概要を公表します。

## 概 要

- 平成 29 年 6 月の全国における熱中症による救急搬送人員数は 3,481 人でした。これは、昨年 6 月の救急搬送人員数 3,558 人と比べると 77 人少なくなっています。
- 全国の熱中症による救急搬送状況の年齢区分別、傷病程度別の内訳等については次のとおりです。
  - 救急搬送人員数の年齢区分では、高齢者が最も多く、次いで成人、少年、乳幼児の順となっています。
  - 搬送された医療機関での初診時における傷病程度をみると、軽症が最も多く、次いで中等症、重症の順となっています。
  - 発生場所ごとの搬送人員数をみると、住居が最も多く、次いで道路、公衆（屋外）の順となっています。
    - ※公衆（屋外）とは、不特定者が出入りする場所の屋外部分
  - 都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数は、沖縄県が最も多く、次いで奈良県、岡山県の順でした。

- 熱中症は正しい知識を身につけ、適切に予防することで、未然に防ぐことが可能です。今後、梅雨明けとともに気温が上昇してくる可能性がありますので、予防対策として、日陰や涼しいところで休憩をとること、こまめに水分補給を行うこと、屋外では帽子をかぶることなどに心がけてください。
- 消防庁では、熱中症予防啓発のコンテンツとして、「予防啓発ビデオ」「予防啓発イラスト」「予防広報メッセージ」「予防啓発取組事例集」を消防庁 HP 熱中症情報サイトで掲載しています。

全国の消防機関をはじめ、熱中症予防を啓発する関係機関にも御活用いただけるよう、以下の消防庁 HP にコンテンツを掲載していますので、是非御活用ください。

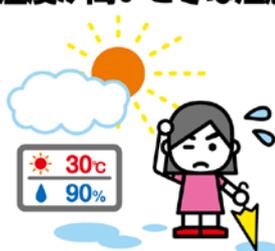
消防庁 HP 『熱中症情報』

[http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9\\_2.html](http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html)

## 【資料】平成 29 年 6 月の熱中症による救急搬送状況



## 湿度が高いときは注意



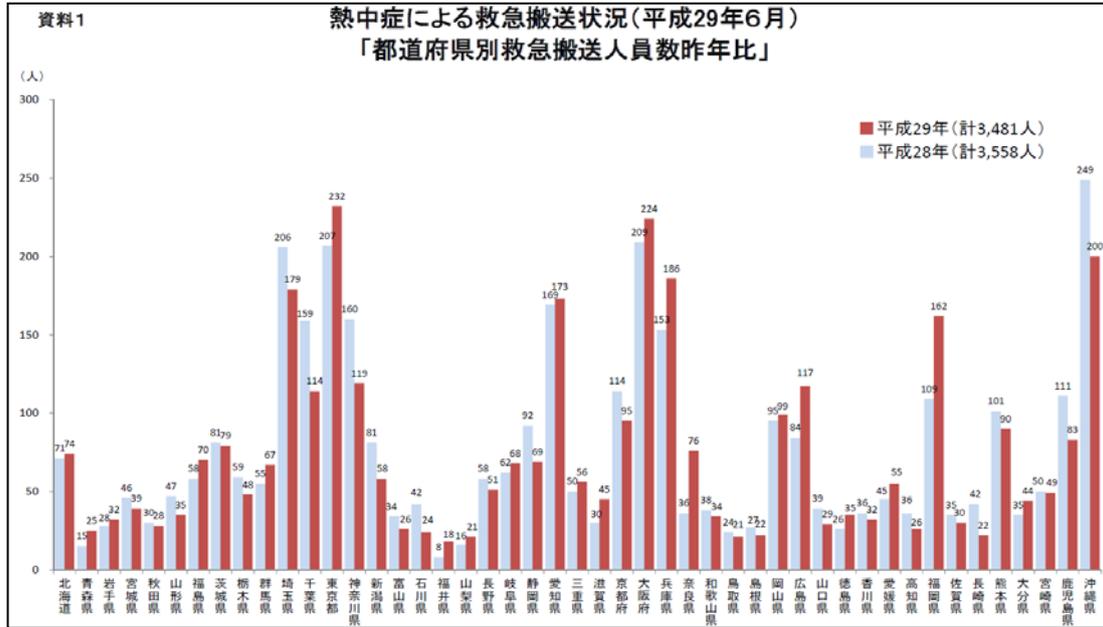
(連絡先)  
消防庁救急企画室  
担当：森川、小川、中西  
電話：03-5253-7529  
FAX：03-5253-7532

# 平成29年6月の熱中症による救急搬送状況の概要

平成29年6月の熱中症による救急搬送状況について調査を行ったところ、その概要は以下のとおりでした。

## 1 総数

平成29年6月の全国における熱中症による救急搬送人員数は3,481人でした。これは、昨年6月の救急搬送人員数3,558人と比べると77人少なくなっています。(資料1、2、4、5、6、8)



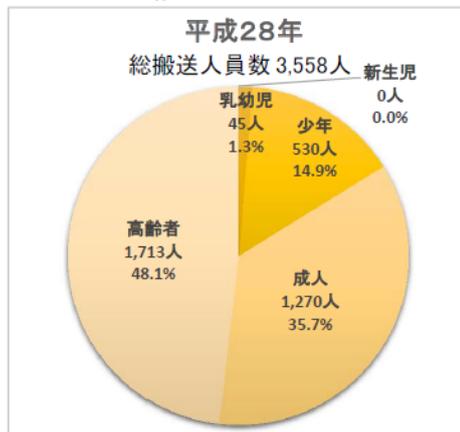
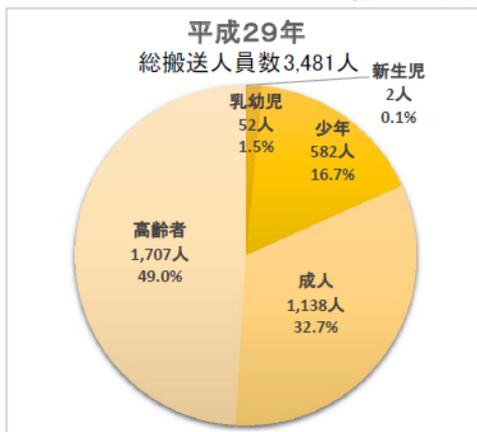
## 2 内訳

### (1) 年齢区分ごとの救急搬送人員数

高齢者(満65歳以上)が1,707人(49.0%)、次いで成人(満18歳以上満65歳未満)1,138人(32.7%)、少年(満7歳以上満18歳未満)582人(16.7%)、乳幼児(生後28日以上満7歳未満)52人(1.5%)の順となっています。

(資料2、5-1、6-1)

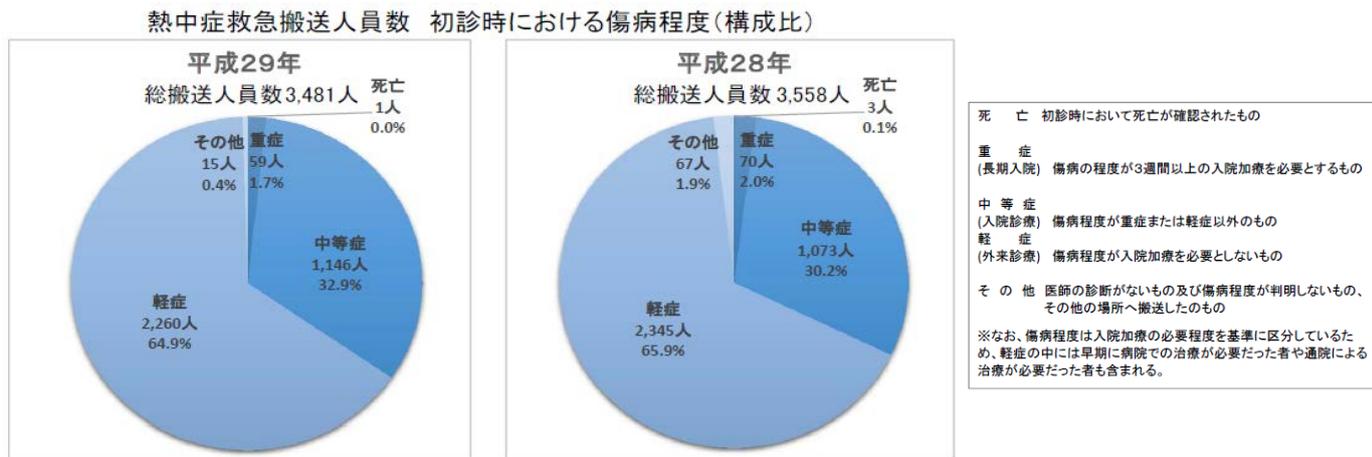
熱中症救急搬送人員数 年齢区分(構成比)



新生児:生後28日未満の者  
乳幼児:生後28日以上満7歳未満の者  
少年:満7歳以上18歳未満の者  
成人:満18歳以上65歳未満の者  
高齢者:満65歳以上の者

(2) 医療機関での初診時における傷病程度ごとの救急搬送人員数

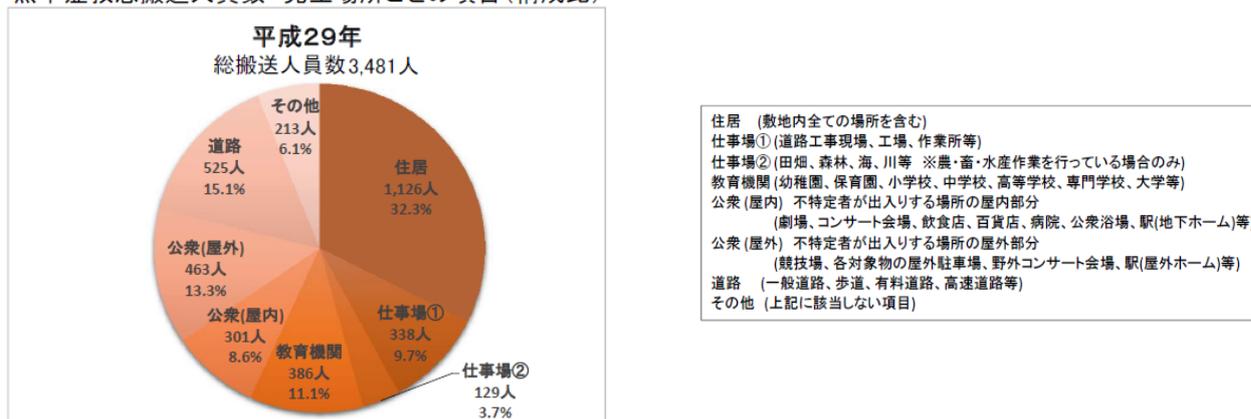
軽症が最も多く 2,260 人 (64.9%)、次いで中等症 1,146 人 (32.9%)、重症 59 人 (1.7%) の順となっています。(資料 2、5-1、6-1)



(3) 発生場所ごとの救急搬送人員数

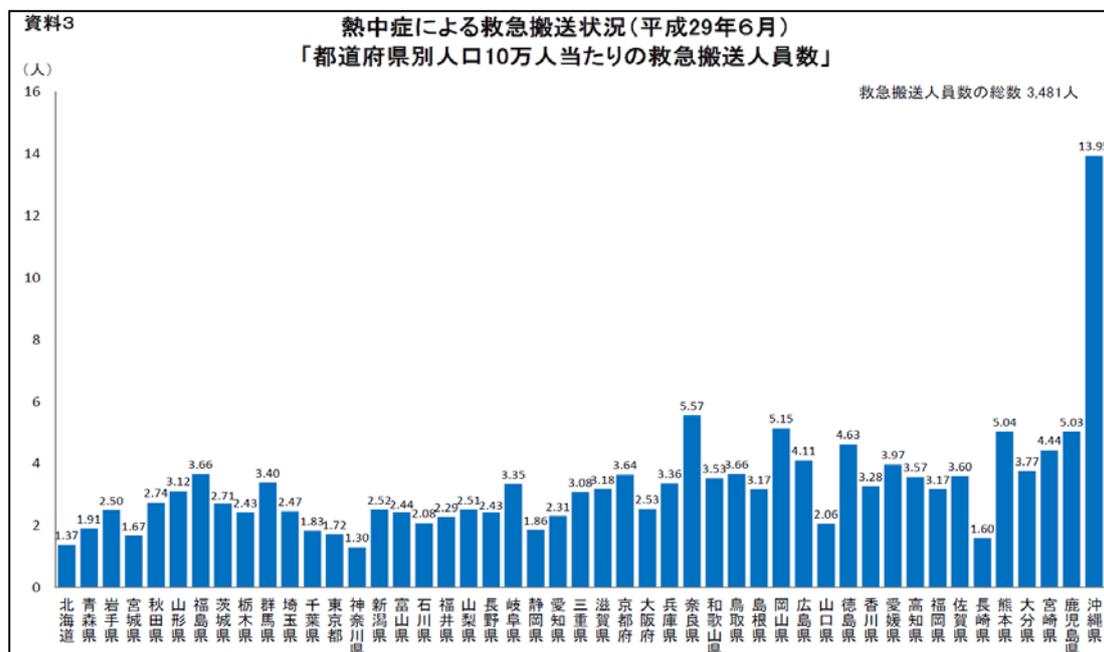
住居が最も多く 1,126 人 (32.3%)、次いで道路 525 人 (15.1%)、公衆(屋外) 463 人 (13.3%)、の順となっています。(資料 2、5-2、6-2)  
 ※公衆(屋外)とは、不特定者が出入りする場所の屋外部分

熱中症救急搬送人員数 発生場所ごとの項目(構成比)



(4) 都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数

沖縄県が最も多く 13.95 人であり、次いで奈良県 5.57 人、岡山県 5.15 人、熊本県 5.04、鹿児島県 5.03 人の順となっています。(資料 3、7)



## 【注意事項】

- 熱中症は正しい知識を身につけ、適切に予防することで、未然に防ぐことが可能です。今後、梅雨明けとともに気温が上昇してくる可能性がありますので、予防対策として、以下の項目に心がけてください。
  - ・日陰や涼しいところで休憩をとりましょう。
  - ・こまめに水分補給を行いましょう。
  - ・屋外では帽子をかぶりましょう。
  
- 消防庁では、熱中症予防啓発のコンテンツとして、「予防啓発ビデオ」「予防啓発イラスト」「予防広報メッセージ」「予防啓発取組事例集」を消防庁 HP 熱中症情報サイトで掲載しています。

全国の消防機関をはじめ、熱中症予防を啓発する関係機関にも御活用いただけるよう、以下の消防庁 HP にコンテンツを掲載していますので、是非御活用ください。

消防庁 HP 『熱中症情報』

[http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9\\_2.html](http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html)

## 【参 考】

- 気象庁「6月の天候」より抜粋  
2017年(平成29年)6月の天候の特徴は以下のとおりです。
  - ・ **西日本太平洋側では降水量はかなり多かった**  
期間後半は、西日本付近で梅雨前線の活動が活発となった影響で、西日本で大雨となり、各地で土砂災害や浸水害等が発生した。このため、月降水量は西日本太平洋側ではかなり多かった。
  - ・ **北日本では降水量はかなり多く、北日本日本海側では日照時間は少なかった**  
北日本では、低気圧が通過しやすかったため、降水量はかなり多く、北日本日本海側では日照時間は少なかった。
  - ・ **沖縄・奄美では気温はかなり高かった**  
沖縄・奄美では、晴れて日射が強かったことに加え、南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、気温はかなり高かった。
  
- 気象庁「向こう1か月の天候の見通し(7月15日～8月14日)」によれば、全国的に温かい空気に覆われやすく、向こう1か月の気温は高くなるようです。

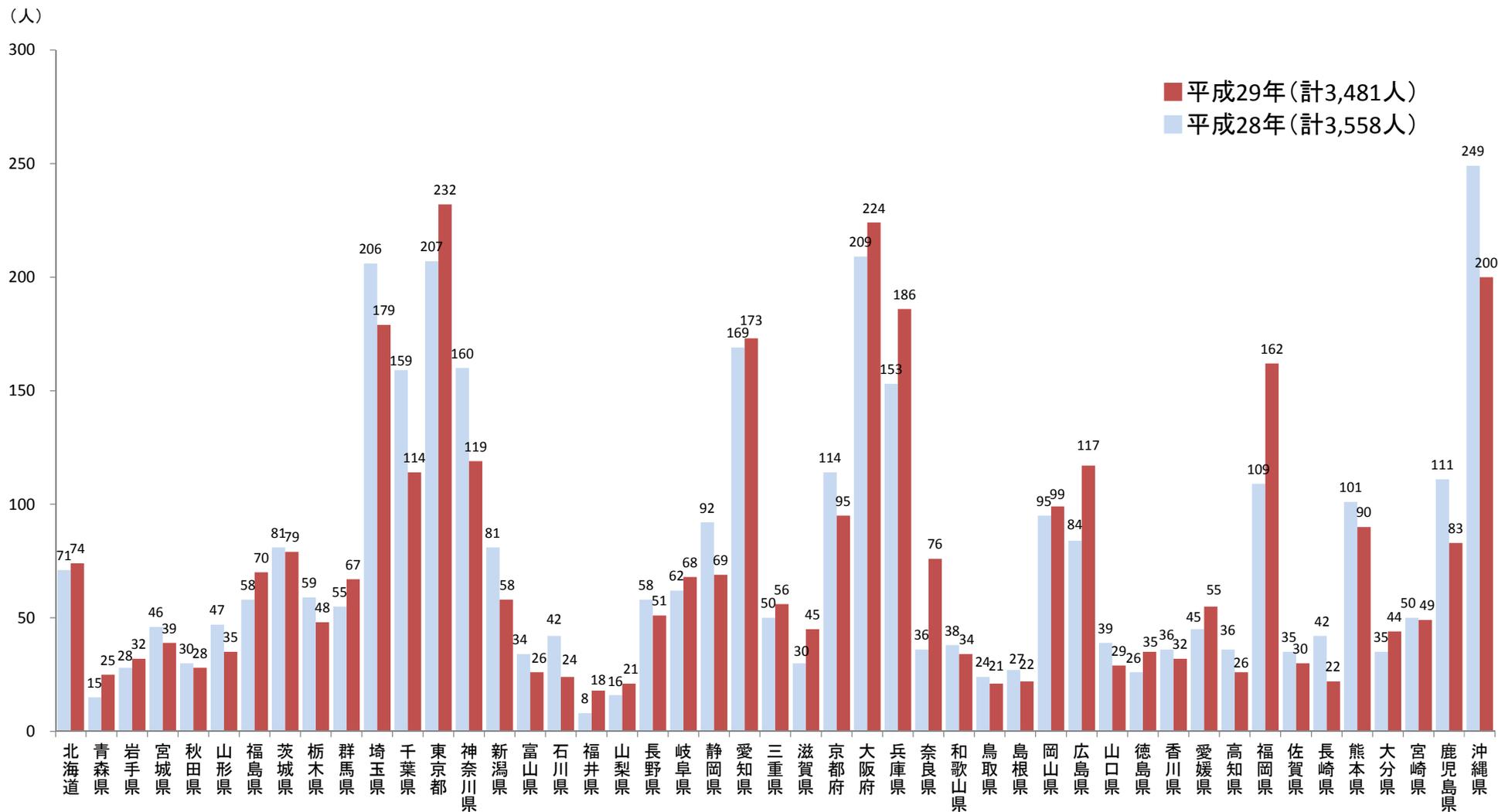
特に北・東・西日本では、期間の前半は気温がかなり高くなるようです。
  
- 暑さ指数(WBGT)と救急搬送人員数とのデータ比較  
暑さ指数と救急搬送人員数との関係について調査をするため、東京都、愛知県、大阪府で両者のデータの比較を表示しています。(参考資料)

## 平成 29 年 6 月の熱中症による救急搬送状況

- 資料 1 熱中症による救急搬送状況（平成 29 年 6 月）  
「都道府県別救急搬送人員数昨年比」（表）
- 資料 2 熱中症による救急搬送状況（平成 29 年 6 月）（グラフ）
- 資料 3 熱中症による救急搬送状況（平成 29 年 6 月）  
「都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数」（グラフ）
- 資料 4 平成 29 年の熱中症による救急搬送状況（週別推移）
- 資料 5 - 1 熱中症による救急搬送状況（平成 29 年 6 月）  
「都道府県別の年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数」（表）
- 資料 5 - 2 熱中症による救急搬送状況（平成 29 年 6 月）  
「都道府県別の発生場所別救急搬送人員数」（表）
- 資料 6 - 1 熱中症による救急搬送状況（平成 29 年 6 月）  
「日別の年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数」（表）
- 資料 6 - 2 熱中症による救急搬送状況（平成 29 年 6 月）  
「日別の発生場所別救急搬送人員数」（表）
- 資料 7 熱中症による救急搬送状況（平成 29 年 6 月）  
「都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数」（表）
- 資料 8 平成 23 年～29 年の熱中症による救急搬送人員数及び死亡者数一覧(表)
- 参考資料 主な都道府県の日別の救急搬送人員数と暑さ指数（WBGT）データとの比較  
（平成 29 年 5～6 月）（グラフ）

資料1

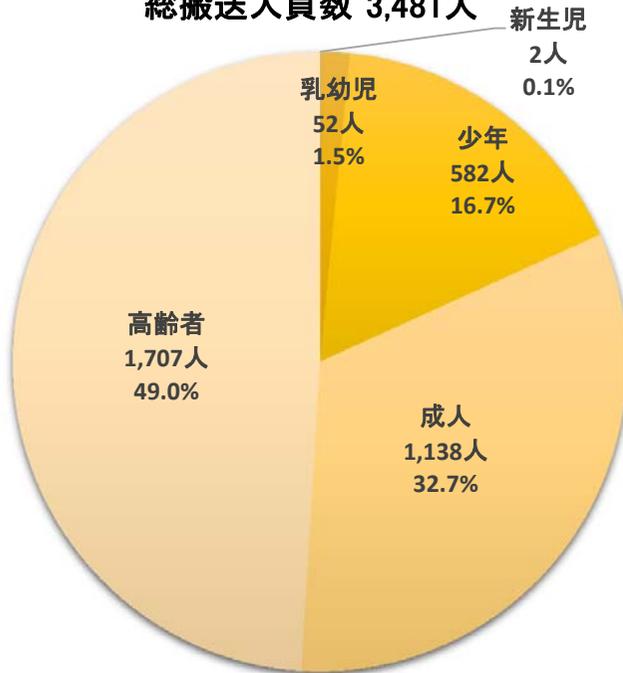
# 熱中症による救急搬送状況(平成29年6月) 「都道府県別救急搬送人員数昨年比」



# 熱中症による救急搬送状況(平成29年6月)

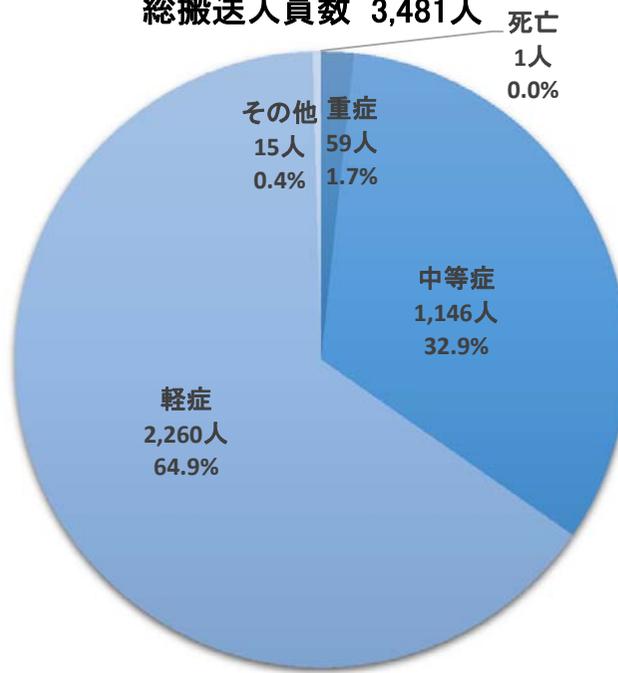
年齢区分(構成比)

総搬送人員数 3,481人



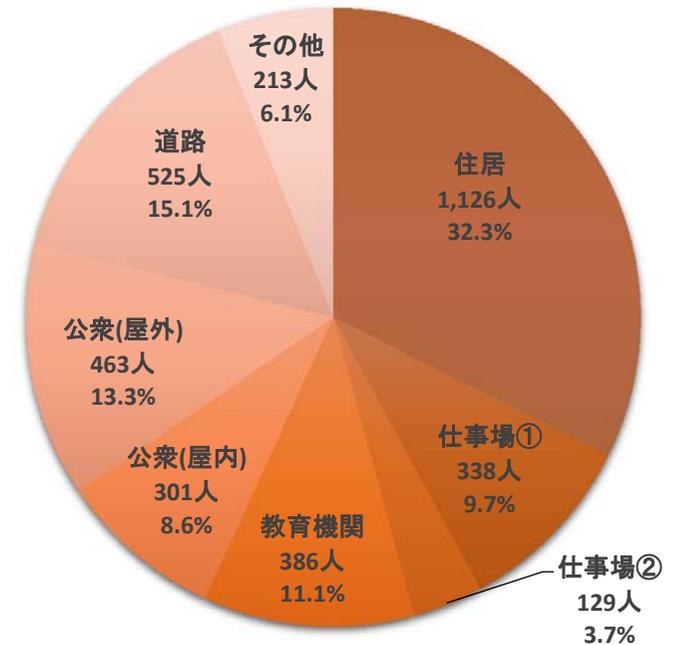
初診時における傷病程度(構成比)

総搬送人員数 3,481人



発生場所ごとの項目(構成比)

総搬送人員数 3,481人



新生児：生後 28 日未満の者  
 乳幼児：生後 28 日以上満 7 歳未満の者  
 少年：満 7 歳以上 18 歳未満の者  
 成人：満 18 歳以上 65 歳未満の者  
 高齢者：満 65 歳以上の者

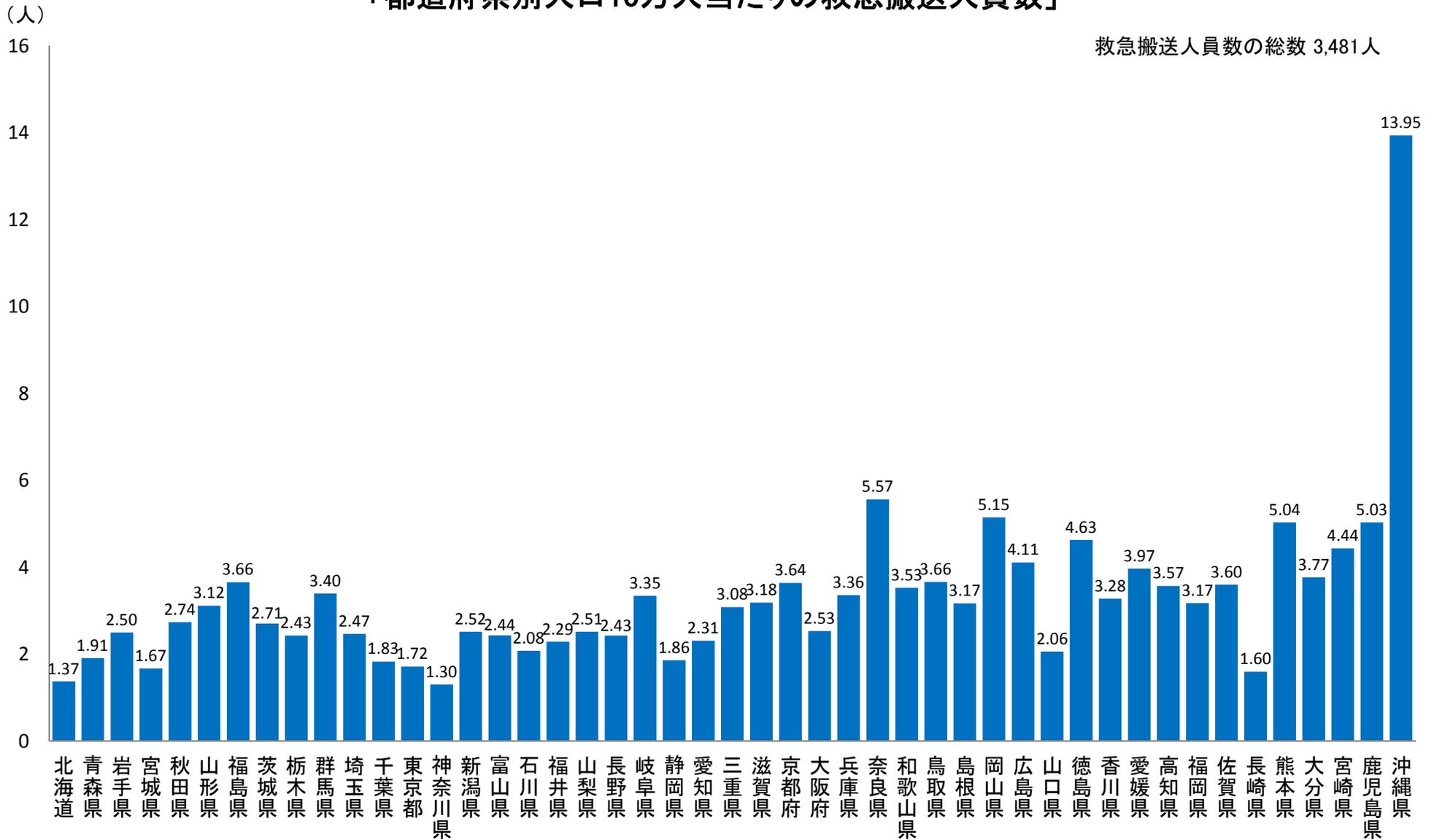
死亡 初診時において死亡が確認されたもの  
 重症 (長期入院) 傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの  
 中等症 (入院診療) 傷病程度が重症または軽症以外のもの  
 軽症 (外来診療) 傷病程度が入院加療を必要としないもの  
 その他 医師の診断がないもの及び傷病程度が判明しないもの、その他の場所へ搬送したもの  
 ※なお、傷病程度は入院加療の必要程度を基準に区分しているため、軽症の中には早期に病院での治療が必要だった者や通院による治療が必要だった者も含まれる。

住居 (敷地内全ての場所を含む)  
 仕事場① (道路工事現場、工場、作業所等)  
 仕事場② (田畑、森林、海、川等 ※農・畜・水産作業を行っている場合のみ)  
 教育機関 (幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、専門学校、大学等)  
 公衆 (屋内) 不特定者が出入りする場所の屋内部分 (劇場、コンサート会場、飲食店、百貨店、病院、公衆浴場、駅(地下ホーム)等)  
 公衆 (屋外) 不特定者が出入りする場所の屋外部分 (競技場、各対象物の屋外駐車場、野外コンサート会場、駅(屋外ホーム)等)  
 道路 (一般道路、歩道、有料道路、高速道路等)  
 その他 (上記に該当しない項目)

※端数処理(四捨五入)のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

資料3

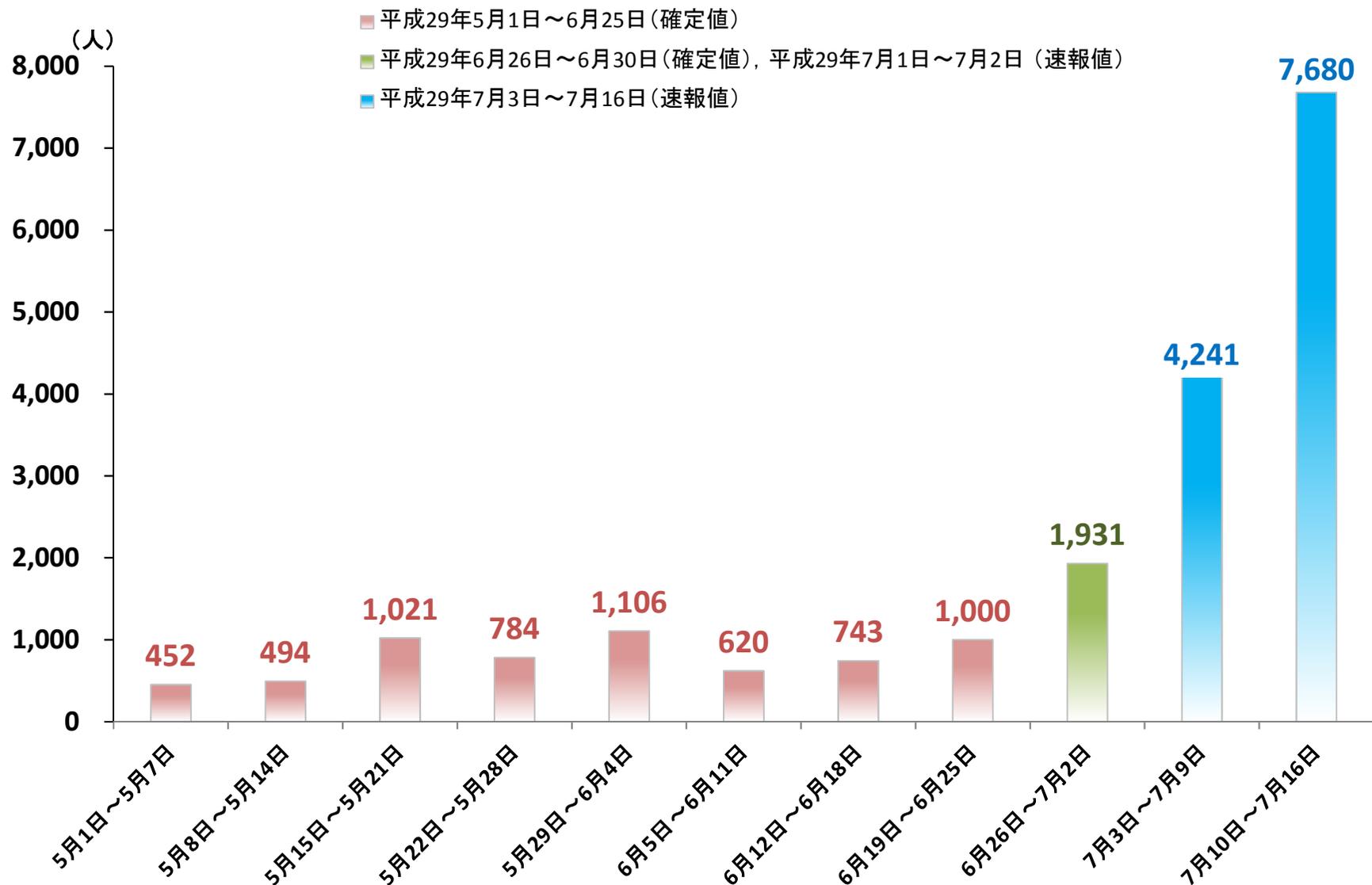
熱中症による救急搬送状況(平成29年6月)  
「都道府県別人口10万人当たりの救急搬送人員数」



※平成27年国勢調査の各都道府県人口を基に算出しています。

資料4

## 平成29年の熱中症による救急搬送状況(週別推移)



\* 速報値(緑、青)の救急搬送人員数は、後日修正されることもありますのでご了承ください。

## 熱中症による救急搬送状況(平成29年6月)

## 「都道府県別の年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数」

都道府県		平成29年6月1日～6月30日											
		年齢区分(人)						初診時における傷病程度(人)					
		新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
1	北海道	0	1	3	17	53	74	0	1	24	45	4	74
2	青森県	0	0	8	8	9	25	0	1	8	16	0	25
3	岩手県	0	0	6	12	14	32	0	0	12	20	0	32
4	宮城県	0	0	9	14	16	39	0	0	15	24	0	39
5	秋田県	0	1	7	8	12	28	0	0	9	19	0	28
6	山形県	0	0	8	9	18	35	0	0	9	26	0	35
7	福島県	0	1	11	18	40	70	0	1	19	50	0	70
8	茨城県	0	3	19	24	33	79	0	1	24	54	0	79
9	栃木県	0	0	9	17	22	48	0	0	19	29	0	48
10	群馬県	0	0	18	23	26	67	0	4	23	40	0	67
11	埼玉県	0	3	36	55	85	179	0	3	57	119	0	179
12	千葉県	0	1	14	44	55	114	0	3	52	59	0	114
13	東京都	0	1	38	84	109	232	0	5	90	137	0	232
14	神奈川県	0	4	20	51	44	119	0	3	50	66	0	119
15	新潟県	0	1	16	16	25	58	0	4	10	44	0	58
16	富山県	0	2	3	7	14	26	0	0	12	14	0	26
17	石川県	0	0	3	6	15	24	0	0	9	15	0	24
18	福井県	0	0	2	7	9	18	0	0	9	9	0	18
19	山梨県	0	0	5	9	7	21	0	0	10	11	0	21
20	長野県	1	0	8	19	23	51	0	0	18	33	0	51
21	岐阜県	0	1	9	21	37	68	0	1	30	37	0	68
22	静岡県	0	1	18	20	30	69	1	1	16	51	0	69
23	愛知県	0	1	20	70	82	173	0	3	38	132	0	173
24	三重県	0	0	4	19	33	56	0	1	7	43	5	56
25	滋賀県	0	1	9	15	20	45	0	0	9	36	0	45
26	京都府	0	6	8	23	58	95	0	2	21	72	0	95
27	大阪府	0	1	54	69	100	224	0	2	44	178	0	224
28	兵庫県	0	4	40	48	94	186	0	2	56	128	0	186
29	奈良県	0	0	15	16	45	76	0	0	26	50	0	76
30	和歌山県	0	0	5	9	20	34	0	0	11	23	0	34
31	鳥取県	0	1	1	3	16	21	0	1	9	11	0	21
32	島根県	0	0	5	7	10	22	0	0	8	14	0	22
33	岡山県	0	2	7	31	59	99	0	1	28	70	0	99
34	広島県	0	0	17	36	64	117	0	4	50	63	0	117
35	山口県	0	0	4	13	12	29	0	0	7	22	0	29
36	徳島県	0	0	11	7	17	35	0	0	11	23	1	35
37	香川県	0	0	2	11	19	32	0	0	14	18	0	32
38	愛媛県	0	1	8	13	33	55	0	0	14	41	0	55
39	高知県	0	0	1	9	16	26	0	0	10	15	1	26
40	福岡県	0	2	32	48	80	162	0	2	88	69	3	162
41	佐賀県	0	0	7	6	17	30	0	0	12	17	1	30
42	長崎県	0	1	4	5	12	22	0	0	9	13	0	22
43	熊本県	0	3	13	34	40	90	0	2	33	55	0	90
44	大分県	0	1	6	15	22	44	0	2	20	22	0	44
45	宮崎県	0	2	4	17	26	49	0	0	11	38	0	49
46	鹿児島県	1	1	9	27	45	83	0	3	39	41	0	83
47	沖縄県	0	5	26	98	71	200	0	6	46	148	0	200
合計【人】		2	52	582	1,138	1,707	3,481	1	59	1,146	2,260	15	3,481
割合		0.1%	1.5%	16.7%	32.7%	49.0%	100.0%	0.0%	1.7%	32.9%	64.9%	0.4%	100.0%

※熱中症の搬送人員に対する割合の算出に当たっては、端数処理(四捨五入)のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

熱中症による救急搬送状況(平成29年6月)  
「都道府県別の発生場所別救急搬送人員数」

都道府県		平成29年6月1日～6月30日								
		発生場所ごとの項目(人)								
		住居	仕事場①	仕事場②	教育機関	公衆(屋内)	公衆(屋外)	道路	その他	合計
1	北海道	25	4	6	1	10	8	12	8	74
2	青森県	3	2	2	5	2	8	3	0	25
3	岩手県	11	5	0	3	2	4	5	2	32
4	宮城県	14	5	1	6	3	3	5	2	39
5	秋田県	9	2	3	6	0	3	2	3	28
6	山形県	7	0	1	3	5	8	8	3	35
7	福島県	22	10	1	5	9	11	8	4	70
8	茨城県	26	3	1	12	8	12	9	8	79
9	栃木県	23	5	1	4	2	7	5	1	48
10	群馬県	21	7	4	12	3	8	6	6	67
11	埼玉県	63	12	6	23	22	19	28	6	179
12	千葉県	34	15	4	7	9	21	12	12	114
13	東京都	74	14	0	26	34	32	46	6	232
14	神奈川県	45	15	1	12	7	14	21	4	119
15	新潟県	18	7	4	10	2	9	6	2	58
16	富山県	7	3	5	0	2	4	2	3	26
17	石川県	7	2	0	2	0	8	3	2	24
18	福井県	4	4	1	1	1	1	2	4	18
19	山梨県	6	1	2	2	2	6	2	0	21
20	長野県	21	2	4	3	4	6	8	3	51
21	岐阜県	17	11	1	5	4	17	8	5	68
22	静岡県	15	6	0	13	6	13	14	2	69
23	愛知県	48	32	3	8	18	15	38	11	173
24	三重県	13	3	2	3	3	16	10	6	56
25	滋賀県	16	5	1	7	3	6	7	0	45
26	京都府	38	8	2	3	14	7	17	6	95
27	大阪府	64	16	2	50	15	16	44	17	224
28	兵庫県	48	12	4	37	10	19	43	13	186
29	奈良県	25	4	7	9	7	13	9	2	76
30	和歌山県	14	3	4	1	1	4	5	2	34
31	鳥取県	7	0	2	2	3	2	4	1	21
32	島根県	4	3	0	5	4	0	5	1	22
33	岡山県	43	13	4	7	6	12	9	5	99
34	広島県	48	8	1	14	13	13	13	7	117
35	山口県	8	3	0	1	3	8	3	3	29
36	徳島県	9	3	0	7	6	2	7	1	35
37	香川県	10	2	3	2	2	5	5	3	32
38	愛媛県	17	3	4	4	2	11	10	4	55
39	高知県	7	4	5	0	1	3	5	1	26
40	福岡県	56	15	6	26	6	20	25	8	162
41	佐賀県	15	1	2	7	0	3	0	2	30
42	長崎県	8	3	2	0	3	3	2	1	22
43	熊本県	32	14	6	6	7	13	8	4	90
44	大分県	17	5	0	4	5	9	2	2	44
45	宮崎県	17	8	3	0	5	7	5	4	49
46	鹿児島県	28	4	9	7	11	10	8	6	83
47	沖縄県	62	31	9	15	16	24	26	17	200
合計【人】		1,126	338	129	386	301	463	525	213	3,481
割合		32.3%	9.7%	3.7%	11.1%	8.6%	13.3%	15.1%	6.1%	100.0%

※熱中症の搬送人員に対する割合の算出に当たっては、端数処理(四捨五入)のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

## 資料6-1

## 熱中症による救急搬送状況(平成29年6月)

### 「日別の年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数」

日付	曜日	熱中症 救急搬送人員 数(人)	年齢区分(人)						初診時における傷病程度(人)					
			新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
6月1日	木	114	0	1	21	38	54	114	0	1	34	79	0	114
6月2日	金	94	0	3	16	36	39	94	0	0	33	60	1	94
6月3日	土	113	0	4	30	35	44	113	0	0	32	81	0	113
6月4日	日	135	0	3	42	38	52	135	0	0	48	86	1	135
6月5日	月	75	0	1	12	24	38	75	0	0	24	51	0	75
6月6日	火	68	0	0	9	19	40	68	0	0	28	40	0	68
6月7日	水	38	0	1	11	10	16	38	0	2	9	26	1	38
6月8日	木	44	0	2	8	15	19	44	0	0	10	34	0	44
6月9日	金	134	0	3	31	39	61	134	0	4	42	86	2	134
6月10日	土	177	0	1	47	65	64	177	0	4	49	123	1	177
6月11日	日	84	0	0	20	26	38	84	0	2	24	57	1	84
6月12日	月	45	0	1	3	13	28	45	0	2	14	29	0	45
6月13日	火	49	0	1	5	14	29	49	0	0	19	30	0	49
6月14日	水	74	0	5	11	23	35	74	0	0	19	55	0	74
6月15日	木	132	0	3	21	37	71	132	0	2	38	92	0	132
6月16日	金	145	0	0	34	45	66	145	1	3	46	94	1	145
6月17日	土	163	0	1	35	44	83	163	0	4	52	105	2	163
6月18日	日	135	0	4	29	41	61	135	0	1	42	92	0	135
6月19日	月	185	0	0	23	48	114	185	0	2	80	102	1	185
6月20日	火	161	0	1	12	54	94	161	0	6	53	101	1	161
6月21日	水	57	0	0	6	28	23	57	0	1	17	39	0	57
6月22日	木	80	0	2	6	37	35	80	0	3	25	52	0	80
6月23日	金	257	0	2	24	89	142	257	0	7	96	154	0	257
6月24日	土	174	1	2	32	67	72	174	0	4	55	115	0	174
6月25日	日	86	0	0	13	37	36	86	0	5	27	53	1	86
6月26日	月	103	0	3	12	26	62	103	0	0	29	74	0	103
6月27日	火	77	0	4	5	23	45	77	0	1	21	55	0	77
6月28日	水	125	1	1	23	41	59	125	0	4	47	74	0	125
6月29日	木	185	0	2	15	66	102	185	0	1	62	121	1	185
6月30日	金	172	0	1	26	60	85	172	0	0	71	100	1	172
計		3,481	2	52	582	1,138	1,707	3,481	1	59	1,146	2,260	15	3,481
熱中症の救急搬送人員数に対する割合			0.1%	1.5%	16.7%	32.7%	49.0%	100.0%	0.0%	1.7%	32.9%	64.9%	0.4%	100.0%

※熱中症の搬送人員に対する割合の算出に当たっては、端数処理(四捨五入)のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

## 熱中症による救急搬送状況(平成29年6月) 「日別の発生場所別救急搬送人員数」

日付	曜日	熱中症 救急搬送 人員数(人)	発生場所ごとの項目(人)							
			住居	仕事場①	仕事場②	教育機関	公衆(屋内)	公衆(屋外)	道路	その他
6月1日	木	114	30	14	8	20	8	16	15	3
6月2日	金	94	29	10	3	11	15	8	13	5
6月3日	土	113	31	6	4	19	11	27	9	6
6月4日	日	135	39	3	6	22	11	31	15	8
6月5日	月	75	24	7	3	5	5	11	14	6
6月6日	火	68	30	2	3	6	2	6	11	8
6月7日	水	38	8	8	3	7	3	5	1	3
6月8日	木	44	14	6	2	6	4	6	6	0
6月9日	金	134	34	10	7	29	11	15	22	6
6月10日	土	177	43	14	6	27	12	36	27	12
6月11日	日	84	32	3	2	9	6	16	10	6
6月12日	月	45	17	5	3	1	3	7	5	4
6月13日	火	49	18	3	2	1	3	11	10	1
6月14日	水	74	17	9	4	10	6	10	13	5
6月15日	木	132	40	12	3	13	11	18	29	6
6月16日	金	145	41	16	4	29	9	13	21	12
6月17日	土	163	47	10	4	21	18	27	26	10
6月18日	日	135	39	3	5	14	9	30	16	19
6月19日	月	185	70	13	12	21	10	13	36	10
6月20日	火	161	52	22	4	10	10	15	37	11
6月21日	水	57	19	14	3	5	7	4	4	1
6月22日	木	80	32	19	1	4	8	7	6	3
6月23日	金	257	99	28	7	14	27	17	49	16
6月24日	土	174	54	10	3	17	25	35	23	7
6月25日	日	86	29	1	5	10	9	17	8	7
6月26日	月	103	39	13	6	8	7	9	17	4
6月27日	火	77	36	11	1	2	9	5	10	3
6月28日	水	125	37	21	4	17	10	11	19	6
6月29日	木	185	71	20	4	8	17	23	26	16
6月30日	金	172	55	25	7	20	15	14	27	9
計		3,481	1,126	338	129	386	301	463	525	213
熱中症の救急搬送人員数に対する割合			32.3%	9.7%	3.7%	11.1%	8.6%	13.3%	15.1%	6.1%

※熱中症の搬送人員に対する割合の算出に当たっては、端数処理(四捨五入)のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

資料7

熱中症による救急搬送状況(平成29年6月)  
「都道府県別人口10万人当たりの救急搬送人員数」

都道府県	6月1日～6月30日			昨年比(倍)	
	平成29年熱中症 救急搬送人員数 (人)	人口10万人当たりの 救急搬送人員数(人)	平成28年熱中症 救急搬送人員数 (人)		
1	北海道	74	1.37	71	1.0
2	青森県	25	1.91	15	1.7
3	岩手県	32	2.50	28	1.1
4	宮城県	39	1.67	46	0.8
5	秋田県	28	2.74	30	0.9
6	山形県	35	3.12	47	0.7
7	福島県	70	3.66	58	1.2
8	茨城県	79	2.71	81	1.0
9	栃木県	48	2.43	59	0.8
10	群馬県	67	3.40	55	1.2
11	埼玉県	179	2.47	206	0.9
12	千葉県	114	1.83	159	0.7
13	東京都	232	1.72	207	1.1
14	神奈川県	119	1.30	160	0.7
15	新潟県	58	2.52	81	0.7
16	富山県	26	2.44	34	0.8
17	石川県	24	2.08	42	0.6
18	福井県	18	2.29	8	2.3
19	山梨県	21	2.51	16	1.3
20	長野県	51	2.43	58	0.9
21	岐阜県	68	3.35	62	1.1
22	静岡県	69	1.86	92	0.8
23	愛知県	173	2.31	169	1.0
24	三重県	56	3.08	50	1.1
25	滋賀県	45	3.18	30	1.5
26	京都府	95	3.64	114	0.8
27	大阪府	224	2.53	209	1.1
28	兵庫県	186	3.36	153	1.2
29	奈良県	76	5.57	36	2.1
30	和歌山県	34	3.53	38	0.9
31	鳥取県	21	3.66	24	0.9
32	島根県	22	3.17	27	0.8
33	岡山県	99	5.15	95	1.0
34	広島県	117	4.11	84	1.4
35	山口県	29	2.06	39	0.7
36	徳島県	35	4.63	26	1.3
37	香川県	32	3.28	36	0.9
38	愛媛県	55	3.97	45	1.2
39	高知県	26	3.57	36	0.7
40	福岡県	162	3.17	109	1.5
41	佐賀県	30	3.60	35	0.9
42	長崎県	22	1.60	42	0.5
43	熊本県	90	5.04	101	0.9
44	大分県	44	3.77	35	1.3
45	宮崎県	49	4.44	50	1.0
46	鹿児島県	83	5.03	111	0.7
47	沖縄県	200	13.95	249	0.8
計		3,481		3,558	1.0

※「人口10万人当たりの救急搬送人員数(人)」は、平成27年国勢調査の各都道府県人口を基に算出しています。

## 資料8

## 平成23年～29年の熱中症による 救急搬送人員数及び死亡者数一覧

(単位:人)

		平成29年(2017)		平成28年(2016)		平成27年(2015)		平成26年(2014)		平成25年(2013)		平成24年(2012)		平成23年(2011)	
		搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡
確定値	5月	3,401	2	2,788	1	2,904	3	調査データなし							
	6月	3,481	1	3,558	3	3,032	2	4,634	6	4,265	4	1,837	3	6,980	14
	7月	\	\	18,671	29	24,567	39	18,407	31	23,699	27	21,082	37	17,963	29
	8月	\	\	21,383	24	23,925	60	15,183	15	27,632	57	18,573	35	17,566	27
	9月	\	\	4,012	2	1,424	1	1,824	3	3,133	0	4,209	1	3,960	3
搬送人員数合計		6,882	3	50,412	59	55,852	105	40,048	55	58,729	88	45,701	76	46,469	73

※平成29年は5月1日から調査を開始

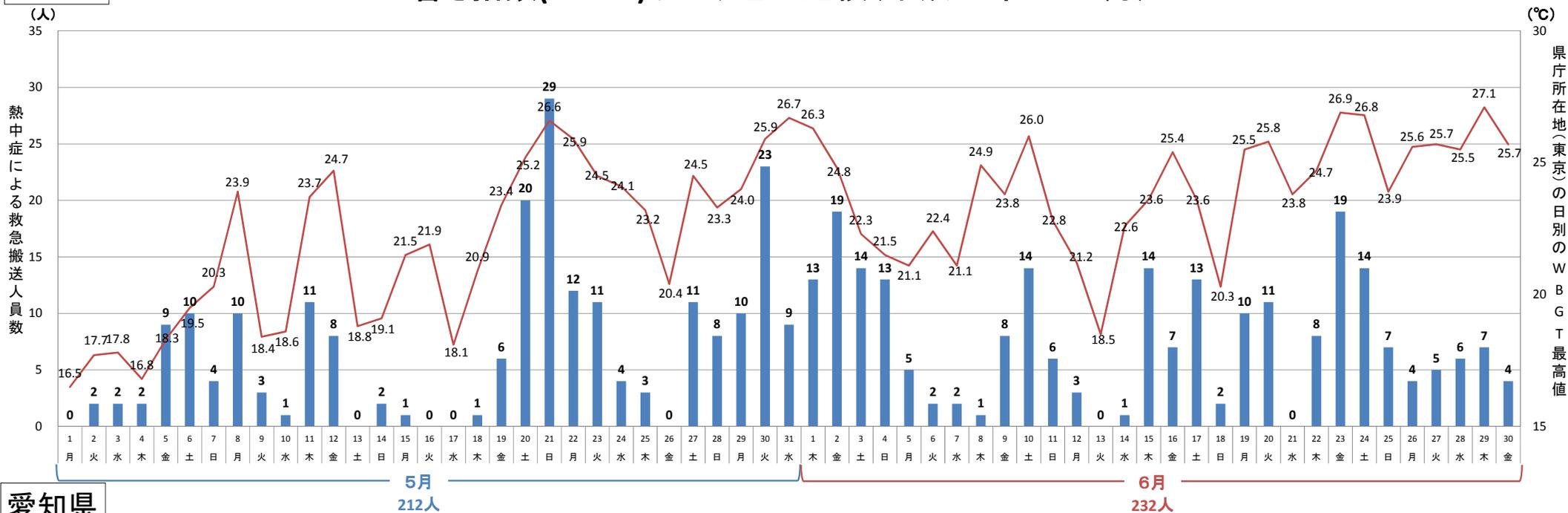
(参考) 梅雨明けの時期

	平成29年(2017)	平成28年(2016)	平成27年(2015)	平成26年(2014)	平成25年(2013)	平成24年(2012)	平成23年(2011)	(平成)
沖縄	6月22日ごろ	6月16日ごろ	6月11日ごろ	6月26日ごろ	6月11日ごろ	6月23日ごろ	6月9日ごろ	6月23日ごろ
九州	7月13日ごろ(九州南部)	7月18日ごろ	7月17～29日ごろ	7月16～20日ごろ	7月8日ごろ	7月23日ごろ	7月8日ごろ	7月14～19日ごろ
中国・四国	7月19日ごろ	7月18日ごろ	7月20～24日ごろ	7月20日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月8日ごろ	7月18～21日ごろ
近畿・東海	7月19日ごろ	7月18～28日ごろ	7月20日ごろ	7月20～21日ごろ	7月7～8日ごろ	7月16～23日ごろ	7月8日ごろ	7月21日ごろ
関東甲信	7月19日ごろ	7月29日ごろ	7月19日ごろ	7月21日ごろ	7月6日ごろ	7月25日ごろ	7月9日ごろ	7月21日ごろ
北陸	—	7月19日ごろ	7月21日ごろ	7月21日ごろ	8月7日ごろ	7月26日ごろ	7月8日ごろ	7月24日ごろ
東北	—	7月29日ごろ	7月26～29日ごろ	7月25日ごろ	8月7～10日ごろ	7月26日ごろ	7月9日ごろ	7月25～28日ごろ

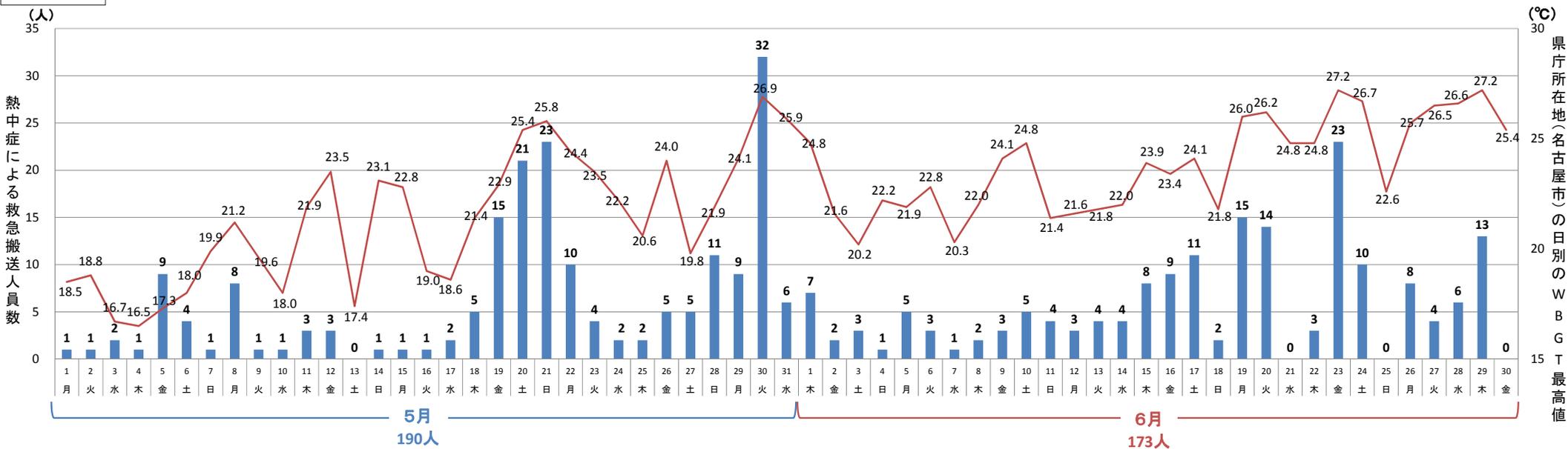
# 参考資料

## 主な都道府県の日別の救急搬送人員数と暑さ指数(WBGT)データとの比較(平成29年5~6月)

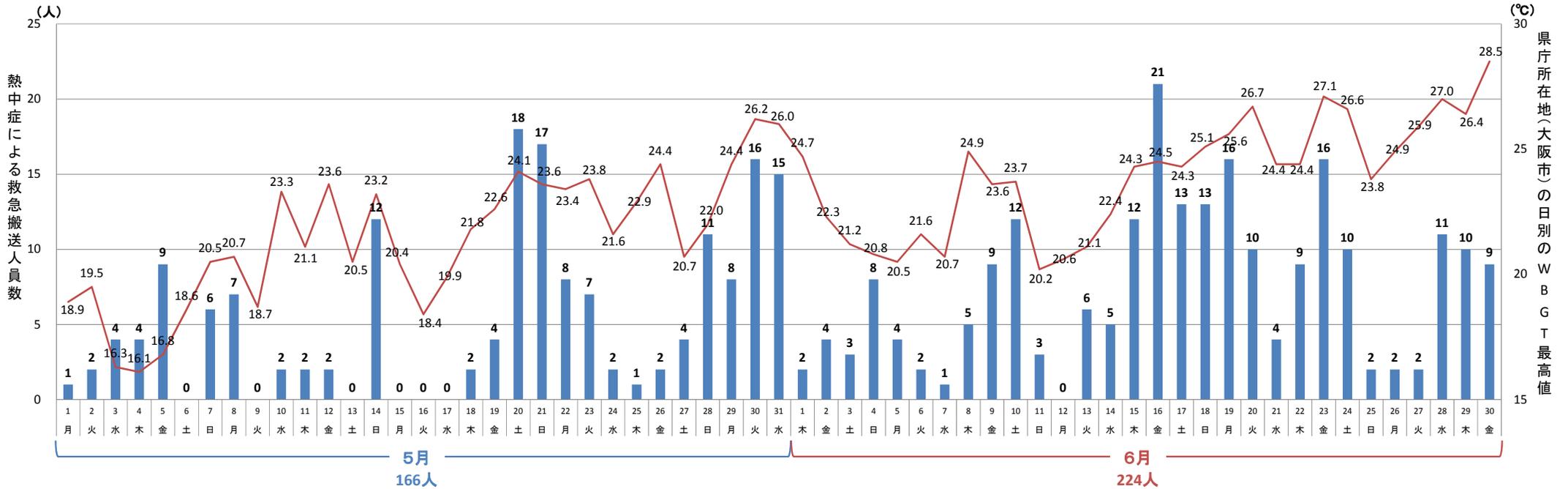
### 東京都



### 愛知県



# 大阪府



## 【参考】

- (1) 暑さ指数(WBGT(湿球黒球温度): Wet Bulb Globe Temperature)とは、熱中症を予防することを目的として1954年にアメリカで提案された指標です。単位は気温と同じ摂氏度(°C)で示されますが、その値は気温とは異なります。暑さ指数は(WBGT)は人体と外気との熱のやりとり(熱収支)に着目した指標で、人体の熱収支に与える影響の大きい①湿度、②日射・輻射など周囲の熱環境、③気温の3つを取り入れた指標です。
- (2) 暑さ指数(WBGT)の温度基準、注意すべき生活活動の目安、注意事項(右図)環境省HPより抜粋
- (3) 環境省熱中症予防情報サイト <http://www.wbgt.env.go.jp/>

温度基準 (WBGT)	注意すべき生活活動の目安	注意事項
危険 (31℃以上)	すべての生活活動でおこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が大きい。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
厳重警戒 (28~31℃※)		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25~28℃※)	中等度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休息を取り入れる。
注意 (25℃未満)	強い生活活動でおこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。

※ (28~31℃) 及び (25~28℃) については、それぞれ28℃以上31℃未満、25℃以上28℃未満を示します。  
日本生気象学会「日常生活における熱中症予防指針Ver.3」(2013)より